週　報

国際ロータリー第 2660 地区

第 2930 例会
第 2519 号

豊中ロータリークラブ

広めよう　ロータリーの心　地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

SERVE TO CHANGE LIVES

2021～22 年度
国際ロータリー会長
Shekhar Mehta
（奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために）

2021.7～2022.6
会　　長　森本博明
副　会　長　北村公一
幹　　事　小川佳伸
雑誌･広報･会報委員長
澤木政光

本日（12 月 14 日）のプログラム

「コロナとヨーロッパ旅行」
（株）セントラルツアーズ　部長
井上　健　様
卓話担当：松本拓郎

次回（12 月 18 日）のプログラム

「年末家族会」

於：ホテル阪急インターナショナル

☆会長の時間☆

「100 周年に寄せる思い」

2021-22 年度　会長　森本博明

会長の時間の前に年次総会を開催し次期理事を選出させて頂きます。
前回(11 月 30 日)の例会には「ガバナー公式訪問」ということで、吉川ガバナーに卓話をして頂きました。当地区は次年度 2022-23 年度に大阪のロータリークラブ創立 100 周年を迎えます。
　今年度、豊中ロータリークラブの会長を拝命し、勉強させて頂くにつれ、より深く気づかされ、もっとも重要なこととして捉えているものは、ロータリーの「四つのテスト」です。
　四つのテスト　　言行はこれに照らしてから
1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

この「四つのテスト」を世界中の人々も物事の判断基準にすれば必ずや世界平和に繋がると信じております。
　コロナ禍以降、当地区ではオンラインオープンセミナーが増えています。ロータリアンに平等に情報共有出来る機会を増やし､他クラブや他団体と垣根を超えて連携することが更に公共イメージ向上に繋がると思います。
　当クラブ会員数 37 名中、医師 14 名、大学教授 4 名と豊中市の地域性を強みとし「教育」に力を入れています。独自の大阪大学の留学生、米山留学生の受け入れ、出前授業、教育フォーラムの開催、国際奉仕としては GG を活用した支援活動を行っています。今後も当クラブの強みに特化し継続的に活動することを望みます。
　最後に「四つのテストが最重要、ロータリーは人づくり、人類は共存共栄が大事、ロータリーの最終目的は世界平和である。」と思います。

四つのテスト 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内
TEL 06-6858-1551　　FAX 06-6857-0011
例　会　日　時：毎週火曜日 12 時 30 分より
事　　務　　局：10 時～16 時(土日祝を除く)
ＨＰアドレス：ｗ
メールアドレス：jtrc2660@sun.inet.or.jp

例 会 出 席 報 告☆

	第2929回	第2926回
例　会　日	12 月 7 日	11 月 11 日
①　会員数 A	37	37
（内出席免除者）	8	8
②　出席義務者数	29	29
③　出席義務者出席数	21	11
④　出席免除者出席数	7	4
⑤　メイクアップ数		8
⑥　出席義務者欠席数	8	18
出席率　%	77.78%	69.70%

出席率（2929 回）③+④／②+④ 出席率（2926 回）③+④+⑤／②+④

○幹　事　報　告○

・国際ロータリー第 2660 地区

「1/29（土）地区ロータリー財団 補助金管理セミナーのご案内が届きました。

「2021 年国際ロータリー（RI）決議審議会結果報告及び 2022 年決議案募集要領について」が届きました。

・豊中市美術展実行委員会より

「第 67 回豊中市美術展協賛へのお礼文」が届きました。

☙ 掲　示　板 ❧

・年末家族会

日　時：12 月 18 日（土）17：15 受付　17：30 開始
場　所：ホテル阪急インターナショナル
※親睦委員会の集合は 16：45 です。

・第 7 回定例理事会

日　時：2022 年 1 月 8 日（火）　17：00～
場　所：ベルクラシック空港

・新年互例会

日　時：2022 年 1 月 8 日（土）　18：00～
場　所：ベルクラシック空港
※送迎バスは、阪急蛍池西口ローソン前より 17：45 に出発いたします。ご利用の方は遅れないようにお願い致します。

・職業奉仕フォーラム

日　時：2022 年 1 月 18 日（火）例会終了後
場　所：ホテルアイボリー　例会場

※事務局の年末のお休みは 12 月 29 日～1 月 4 日までとなります。宜しくお願い致します。
尚、この間の緊急連絡は会長・幹事までお願い致します。

😊12 月 7 日のニコニコ箱報告😊

・誕生日祝いを頂いて
田中、米田、畑田、南各会員
・結婚記念日祝いを頂いて
矢口、眞下、南各会員
・家内の誕生日祝いを頂いて
森本、松尾各会員
・地区大会、お世話になりました。矢口会員
・北村先生にお世話になりました。松山会員
・ポールハリスフェローのバッジを頂いて
木村会員
・米山功労賞を頂いて　矢野会員
・欠席のお詫び　佐川会員
・写真を頂いて
米田、森本、北村、小牧各会員

ポインセチアがクリスマスの花とされるようになった主な由来の 1 つが、色です。クリスマスによく使用される**赤・緑・白の 3 色**はクリスマスカラーと呼ばれ、赤は「キリストの流した血の色」、緑は「永遠の命や愛」、白は「純潔」を表します。葉が赤と緑、樹液が白のポインセチアは、まさにクリスマスにぴったりの植物です。

◎副幹事・副 SAA 当番◎

12 月副幹事　豊島了雄会員
12 月副 SAA　松本　悟会員
1 月副幹事　谷野桂子会員
1 月副 SAA　村司辰朗会員

☆12 月受付当番☆

チーフ：豊島了雄会員
12 月　7 日　矢野　昭会員、松岡　治会員
12 月 14 日　小寺潤一会員、田畑榮彦会員

☆1 月受付当番☆

チーフ：松本　悟会員
1 月 18 日　田中正一会員、宮田幹二会員
1 月 25 日　横田広司会員、深瀬浩一会員

12月7日の卓話

前期新会員卓話
「がんばれニッポン」

野村證券株式会社 豊中支店 支店長　南 浩暁

本日は、卓話の機会をいただき誠に有難うございます。入社して３０年を経て感じている株式市場分析の考え方についてお話しさせていただきます。 日経平均株価の推移と米国のダウ・ジョーンズ工業平均株価の推移をご覧ください。ここ３０年で日経平均は１９８９年の高値には回復していませんが、ダウ・ジョーンズ工業平均株価は高値を更新しています。なぜでしょうか。仮説ではございますが、大きく２つの要因があると考えています。

１つ目の要因は、インフレーション（物価が上がる/お金の価値が下がる）傾向の国であるか、デフレーション（物価が下がる/お金の価値が上がる）傾向の国であるかです。一般的に景気には循環があり、景気後退期には金利が下がり、景気拡大期には金利が上昇します。日本においては、その抑揚が少なく、金利上昇局面すなわち景気拡大期の特徴が見られない時代が長く続いています。結果として、物価上昇が起こるインフレーション傾向である国ではなく、株価にもマイナスである局面が多いと言えるでしょう。

２つ目の要因は、国力の低下傾向です。１９９０年以降の名目ＧＤＰの成長ペースは世界の成長ペースと比較し、大きく見劣りしています。国勢調査確定値によると生産年齢人口（１５歳～６４歳）は、ピークだった１９９５年の８７１６万人から７５０８万人（マイナス 13.9%）と大きく減少していますが、これらの事実が長期的に経済成長を妨げる要因となっていると考えられます。対策としては、雇用制限の撤廃やデジタル化の進展等による生産性改善が急務と言えますが、日本の持続的成長に必要なのは、次世代を担う人を育てることではないでしょうか。目まぐるしい変化と多様性の時代だからこそ、ロータリーの理念とネットワークが人を育てるのだと思います。力を合わせて豊中を盛り上げてまいりましょう。

ご清聴ありがとうございました

12月7日の卓話

前期新会員卓話
「大阪大学大学院理学研究科・理学部における天然物化学研究」

大阪大学理学研究科　教授　深瀬浩一

大阪大学の源流は適塾にまで遡り、理学研究科にも繋がっている。緒方洪庵の次男の緒方惟準、娘婿の緒方拙斎の協力のもとに 1869 年に仮病院が設立され、同年に大坂府医学校・病院となり、大阪府病院、大阪公立病院、府立大阪病院、府立大阪医学校、大阪医学校などの経緯を経て、1915 年には大阪府立医科大学に昇格、1919 年には大阪医科大学となった。大阪医科大学初代学長の佐多愛彦の弟子である塩見正次は、亜鉛鉱業で得た私財の半分の百万円を寄付し、基礎的な理化学研究の推進を目的として 1916 年に財団法人塩見理

化学研究所が設立され、佐多が所長に就任した。さらに 1931 年に大阪帝国大学が発足した（当初は医学部と理学部の二学部体制）。その創設にあたって、塩見理化学研究所は 40 万円を大阪府に提出し、大阪医科大学蓄積金等と併わせて 185 万円が大阪帝国大学設立基金とされ、その全てが理学部創設に当てられたということである。

初代理学部長には真島利行博士が就いた。真島は、日本の有機化学を築いた一人であり、大阪大学においても天然物化学を牽引した。天然物化学は、生物由来の物質（=天然物）を扱う有機化学の一分野で、主に天然物の単離、構造決定、合成を対象にする有機化学でも伝統のある分野であるが、生物活性天然物の働きの解明や医薬品への応用などで現在でも最先端領域である。眞島は、漆の主成分であるウルシオールの構造決定など日本特産の天然有機化合物の構造研究を中心とした研究を推進した。その弟子である小竹無二雄は、ガマ毒の強心性ステロイドに関する研究で帝国学士院賞（昭和 19 年）を受賞している。また赤堀四郎も真島の弟子であり、我国のアミノ酸、ペプチド、タンパク質化学の基盤を築いた。赤堀の弟子である金子武夫が、現在筆者が主催する天然物有機化学研究室の初代教授であり、アミノ酸、ペプチド研究に携わった。二代教授が芝哲夫であり、ペプチドに関する研究を継続するとともに、その次を引き継ぐ楠本正一とともに複合糖質研究、糖鎖研究を開始した。これらの研究は、現在に至るまで、天然物有機化学研究室における主要研究課題となっている。芝は、化学史研究、蘭学・適塾研究でも知られ、有機化学研究の業績を含め 2005 年大阪文化賞を受賞した。楠本は複合糖質の合成と免疫機能研究などの業績で、1983 年国際免疫薬理学会賞、2004 年 Bang Award (国際エンドトキシン学会)、2016 年 Nakanishi Prize を受賞するなど国際的に活躍した。

天然物有機化学研究室では世界に先駆けて、生物活性化合物を基盤に、それらの働きの仕組みを解明する研究を行ってきた。その主要な課題は、細菌由来糖鎖の免疫増強作用である。我々の身体が持つ自然免疫機構は、病原体の侵入を検出するために多数のセンサー受容体を持つ。センサー受容体は病原体由来成分を検出して生体でアラームを鳴らし、免疫を増強する。この機構は、抗体産生や抗ウイルス・抗腫瘍免疫などの獲得免疫系を制御する。なお自然免疫機構の解明により、Beutler 博士と Hoffmann 博士は 2011 年のノーベル生理学・医学賞を受賞した。筆者も、この自然免疫の基本概念の構築に、化学の観点から貢献できたのは幸運であった。我々が最も力を入れてきた研究に細菌由来糖鎖リポ多糖に関する研究がある。リポ多糖は内毒素とも呼ばれ、細菌感染において敗血症を引き起こす原因物質の一つでもある。リポ多糖の免疫増強活性の本体はリピド A と呼ばれる糖脂質であり、芝、楠本は、リピド A が内毒素の本体であることを確定させた。リポ多糖は、免疫を効果的に増強するが同時に炎症を惹起する（局所炎症や発熱など）。新型コロナウイルスの mRNA ワクチンも同様に自然免疫を刺激して、免疫を増強するとともに炎症を惹起する。なお多くのワクチンには、自然免疫を刺激してワクチンの効力を上げるためにアジュバントが添加される。

天然物有機化学研究室では弱毒化リピド A 誘導体の開発に成功しており、海外製薬大手の GSK は類似の弱毒化リピド A 誘導体をワクチンアジュバントとして実用化した。我々はさらに共生細菌由来の弱毒性リピド A の開発にも成功した。このリピド A は粘膜免疫を効果的に活性化するアジュバントとして実用可能なものとしては世界初である。現在注射が不要である経鼻ワクチンや口腔ワクチンへの展開を検討している。

以上のように科学の発展の背景には、先人の努力と挑戦がある。大阪大学初代総長長岡半太郎は「勿嘗糟粕」と揮毫された。「先人の業績を真似るな、常に創造的であれ」というような意味である。小竹の残した Etwas Neues（何か新しいこと）も同様の意味である。このように常に新しいことに挑戦することが大阪大学の伝統・精神である。この精神を後世に伝えることが私どもの責務と考えて次世代の創造的人材の育成にあたっており、今後もご支援いただけると幸いである。